

中国語の環

第116号

『中国語の環』編集室編 2021年1月

目次

- 11 **巻頭エッセイ**
趣味は人生を彩り豊かに！
——兴趣爱好会让你的
人生变得丰富多彩！
- 12 **中国語でどういう？**
そうとは限らない
- 13 **紛らわしい文法表現**
“V 不得₍₁₎”と“V 不得₍₂₎”
- 15 **看图学谚语**
絵で見ることわざ(6)
- 17 **中国語と芸術**
役割語から見る
中国語と日本語の違い (続)
- 18 **読者の広場**
準1級に合格して

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

趣味は人生を彩り豊かに！——兴趣爱好会让你的人生变得丰富多彩！

日本中国語検定協会理事・大阪大学 古川 裕

私と中国語とのつきあいは既に四十年を越えて、人生の半分以上を占めています。中国語をただ単に仕事の対象として学び、教え、研究するだけでは、あまりにも味気ない…というわけで、近年は中国語との趣味的なつきあいを楽しんでいます。検定試験に挑戦される皆さんにも、中国語を楽しみ、中国語で人生を豊かにしていただけたらとの思いから、中国語人生の楽しさの一端をご紹介します。

北京に留学していた前世紀80年代から身についた習慣で、わざわざ身構えたりすることなく、日常的に中国語の音声に触れるようにしています。自宅でも職場でも、運転中の車内でも“相声”や“评书”をBGMがわりに流しておけば、中国語のシャワーを全身に浴びることで周囲の空間は中国語世界に一変します。特に“相声”は中国語ならではの笑いのツボを知るのにうってつけで、「落語、漫才、新喜劇」で育った関西人の感性を大いに満足させてくれるのです。

お笑い好きが高じて、桂む雀さんと桂雀喜さんというプロの落語家さんと“中文単口相声”に取り組んでいるのも、すこぶる楽しい経験です。残念ながら自分自身が高座に上がって一席演じるというわけではなく、上方落語の台本を中国語に編訳し、発音レッスンをするのが私の役割。英語落語に挑戦された桂枝雀師匠の門下だけあって、お二人とも中国語落語の完成に向けて情熱を注がれ、“动物园（動物園）”“最怕包子（饅頭怖い）”“盘子屋（皿屋敷）”という古典落語ではお馴染みの咄を中国語で公演することができました。いつの日か中国や台湾に乗り込んで、中国語落語で中国語母語話者を笑いの渦に巻き込みたいと夢見ています。

また、学生時代から中国語の映画やドラマを好んで見てきたことも、中国語人生に彩りを添えてくれました。教科書では触れにくいリアルでビビッドな中国語とつきあうために、中国語専攻の高学年クラスでは映画やドラマに字幕翻訳をつける作業を行っています。映像作品の字幕翻訳は一般的な翻訳とは大違いで、字数制限との戦いです。セリフが聞こえている数秒の時間内で、観客が読み切れる日本語を適切に添える（原則は「セリフ1秒に翻訳4文字」！）わけで、中国語の運用能力に加えて日本語力も求められます。この授業の成果は、毎年春に開催される大阪アジア映画祭Osaka Asian Film Festivalで日本初公開となる中国語映画の日本語字幕として上映されるので、学生諸君も大きな達成感を得ることが出来る楽しい作業なのです。翻訳字幕を添えた中国映画《师父》（邦題『ファイナル・マスター』）や台湾映画《比悲傷更悲傷的故事》（邦題『悲しみより、もっと悲しい物語』）がDVD化されたのも、中国語と長年つきあって得たご褒美です。

受験や単位取得だけのためではなく、こんな風に人生を楽しませてくれる仲の良い相棒として中国語とつきあってみませんか。あなたの人生もきっと豊かな彩りに充ち溢れるに違いありません。

そうとは限らない

日本中国語検定協会副理事長・中京大学 張 勤

次の中国語の“不见得”はなかなかよい訳が難しい。

- (1) A：这次旅行路途远,住宿条件也不太好,小菊不会去吧。(今度の旅行は遠いし,宿泊環境もあまりよくないから,菊ちゃんは行かないだろう。)
B：不见得吧。你想她的两个好朋友都去,她或许会跟着去。(そうかな。親友が二人も行くから,一緒についていくかも知れんよ。)
- (2) A：你看生日礼物给她买条围巾,怎么样?(誕生日のプレゼントにマフラーを買ってあげたらどう?)
B：她不见得会喜欢吧。还是去看看有没有合适的小摆设吧。(喜ぶとは思わないね。やっぱり小さな飾り物などいいものがないか,見てみよう。)

“不见得”は一つの命題や考えに対して否定的な考えを表す表現だが,あからさまに否定するような刺々しさはなく,そうとは限らないよというようなニュアンスで表現される。また“不见得”は,(1)のように独立した述語として使えるほか,(2)のように副詞的にも用いられる。もう少し例を見てみよう。

- (3)他真找到销售的工作了,不见得受得了。(本当に販売の仕事が見つかったとしても,彼は耐えられるかどうかは分からないね。)
- (4)你做不到或不愿意做的事,别人不见得不能做到。(自分ができないまたやりたくないことが,他の人もできないとは限らないよ。)
- (5)总认为只有欧美球队才是第一流的,其实不见得。(欧米のチームだけが一流とばかり思われるが,実はそうではないと思う。)
- (6)以前听说每一滴水最终都能汇入大海,如今看来也不见得。(昔,どの一滴の水も最後は海に注いでいけると聞いたが,いま考えればそうでもないね。)
- (7)难道你真的觉得自己很完美?我完全不见得。(まさか本気で自分が完璧だと思っているの?僕はまったくそう思わないが。)

“不见得”の“见得”が「思う／理解し得る」という意味なので,(7)の使い方も肯くものである。

以上の例から分かるように“不见得”は話し手の主観的な見方を表しており,(8)のような自分のことについてはなかなか使いにくいのだ。

- (8)?我明天不见得去。(わたしは明日(自分が)行くとは限らない。)
→我明天不一定去。(わたしは明日行かないかもしれない。)
- (9)我明天不见得能去。(わたしは明日(自分が)行けるとは限らない。)

行くことができるかできないかについてなら,主観的な見方が示せるわけだ。(8)の場合は近似的な表現の“不一定”が適切である。“不一定”の日本語訳は“不见得”と同じになるが,主観的な見方を示す“不见得”に対し,“不一定”は「まだ分からない,決まっていない」という客観性を持つ表現である。

“V不得₍₁₎”と“V不得₍₂₎”

日本中国語検定協会理事・文京学院大学 魯 曉琨

“V得/不得”は可能補語表現の一種ですが、肯定形“V得”の使用頻度が極めて低いため、否定形“V不得”のみ取り上げます。“V不得”は同じ形で異なるタイプの意味を表すことができます。まず、例文を見てみましょう。

(1)公交车上人太多，挤得我动不得。

(バスの中は人が多すぎて、体が動かせないほど込み合っていました。)

(2)咱们是埋伏在敌人的眼皮底下，可万万动不得。

(私たちは敵の目の前に待ち伏せをするため、絶対に動いてはいけないよ。)

日本語の訳文で示したように、同じ“动不得”が(1)では体が動かせないですが、(2)では体を動かしてはいけないという意味です。ここでは、(1)の“动不得”のような“V不得”を“V不得₍₁₎”とし、(2)の“动不得”のような“V不得”を“V不得₍₂₎”とし、そして“V不得₍₁₎”と“V不得₍₂₎”の区別を明らかにしたい。

まず、“V不得₍₁₎”の用例を見てみましょう。

(3)我的腿走不得，但还可以动脑，动嘴。

(私の足は歩けないが、頭も口もまだ使える。)

(4)我有病，熬不得夜，先走一步。

(私は病気で、夜更かしができませんので、お先に失礼します。)

(5)爱晕车的人都闻不得汽油味儿。

(よく車酔いをする人たちはみなガソリンが匂うと気持ちが悪くなります。)

(6)他做了这种事，回不得家乡，见不得父母。

(彼はこのようなひどい事をやったので、家にも帰れず、親にも合わせる顔がありません。)

“V不得₍₁₎”はVを実現するための条件が備わっていないからVが実現できないことを表しています。(3)では足に支障があって“走”が実現できず、(4)では病気があって“熬夜”が実現できません。(5)(6)も同様な説明ができます。ただ、“V不得₍₁₎”の表される具体的意味については、紙面の制限で、次回に取り上げます。

なお、“V不得₍₁₎”について、過去の研究論文では、使用頻度が極めて低く、現代中国語からだんだん消えていくと結論したものがありますが、筆者の調査でこの結論は否定されました。以下の“V不得₍₁₎”はよく使われています。

容不得 见不得 动不得 动弹不得 走不得 做不得 怨不得 看不得 吃不得 去不得
说不得 打不得 受不得 认不得 掺不得 下不得 等不得 穿不得 耐不得 作不得
生存不得 识不得 翻不得 回不得 死不得 登不得 住不得 安放不得 坐不得
收不得 饶不得 闻不得 休不得 抵不得 脱身不得 背不得 睡不得 抵赖不得
割舍不得 偷不得 舍弃不得 熬不得 忍不得

次に、“V不得₍₂₎”の用例を見てみましょう。

(7)官小姐娶不得的，要你服侍她，她不会服侍你。

(官のお嬢さんを嫁にしてはだめよ。あなたに面倒を見てもらう一方で、あなたの面倒を見ないから。)

(8)她养的花碰不得，她的花是要卖钱的。

(彼女の育てた花に触ってはだめ。彼女の花は売り物だから。)

(9)外面危险，你去不得呀。

(外は危険ですから、行っちゃだめ。)

(10)这件事对谁也讲不得。

(この事を誰にも言うてはいけません。)

例(7)~(10)のように“V不得₍₂₎”は「…てはだめ」「…てはいけない」と訳し、禁止や阻止の意味を表します。しかし、禁止や阻止の意味の日本語表現を中国語に訳す際、“V不得₍₂₎”に訳せるケースは限られています。“V不得₍₂₎”は普通会話文で使われており、話し手はVが実現すると必ず悪い結果がついてくると判断し、聞き手にVを実現しないよう忠告することを表します。(7)では話し手は官のお嬢さんをもらうと、旦那に面倒を見てもらう一方で、旦那の面倒を見ないという結果を招くという認識で、「官のお嬢さんを嫁にしてはだめよ」と聞き手に忠告しています。(8)では、彼女の花は売り物だから、触られたことにより、売れなくなり、弁償させられるという結果を招くという推理で「彼女の育てた花に触ってはだめ」と聞き手に忠告しているのです。(9)(10)も同じような説明ができます。

ここまでの話で“V不得”という形で異なる意味が表されることをはっきりさせました。また、(1)(2)の“动不得”のように、Vが同じ動詞であっても“V不得”は違う意味を表す場合があります。ただし、“V不得₍₁₎”にはよく目的語を伴うが、“V不得₍₂₎”には目的語を伴うことができないため、“V不得O”という形で使われる場合は間違いなく“V不得₍₁₎”です。例(4)(5)(6)はみな“V不得O”という構造です。“V不得”の目的語は意味からいうと受け身ですが、しかし、受け身が主語に置かれた場合、“V不得₍₁₎”も“V不得₍₂₎”も可能です。

(11)我又发福了，这件衣服已经穿不得了。

(私はまた太りました。この服はもう着られなくなりました。)

(12)这件衣服穿不得，一个高中生怎么能穿这么贵的东西呢？

(この服を着てはいけない。高校生はこんな貴重な服をどうして着られるのか。)

受け身が主語に置かれた“这件衣服穿不得”の“穿不得”は(11)では“V不得₍₁₎”，(12)では“V不得₍₂₎”です。

また、“V不得₍₁₎”を用いる際は、話し手は客観的な事実を述べるのに対し、“V不得₍₂₎”を用いる際は、話し手は主観的な判断と予測を示しています。たとえば、(7)の“官小姐娶不得的”という結論も“要你服侍她，她不会服侍你”という理由も話し手の価値観によるもので、価値観が異なれば異なる結論になるかもしれません。

絵で見ることわざ(6)

絵・張 恢

文・『中国語の環』編集室



鸡急上房，狗急跳墙

jī jí shàng fáng, gǒu jí tiào qiáng

鶏は追い詰められると屋根に飛び上がる，犬は追い詰められると塀を飛び越える；人はせっぱ詰まると捨てばちな行動に出る。窮鼠(きゅうそ)猫をかむ。



疾风知劲草

jífēng zhī jìngcǎo

疾風に勁草(けいそう)を知る；激しい風が吹いて初めて強い草の存在が知られるように，厳しい試練に遭って初めて人の節操の固さが知られる。



家丑不可外扬

jiāchǒu bù kě wài yáng

家の恥は外に漏らしてはならない；家庭内のいざごは外に言い触らしてはならない。内部のもめごとは外に出してはならない。



家家有本难念的经

jiājiā yǒu běn nán niàn de jīng

(外見には幸せそうに見えても)どこの家にもそれぞれの困り事があるものである。“难念的经”は「難しいお経」，転じて「困難な事」。



姜是老的辣

jiāng shì lǎo de là

生姜(しょうが)はひねたものの方が辛い；年長者の人生経験は尊ぶべきであるというたとえ。亀の甲より年の劫(こう)。



解铃还须系铃人

jiě líng hái xū xì líng rén

鈴を結んだ者が鈴を解かなければならない；問題を引き起こした者が問題を解決しなければならない。播いた種は刈らねばならぬ。“解铃系铃”とも。



今朝有酒今朝醉

jīnzhāo yǒu jiǔ jīnzhāo zuì

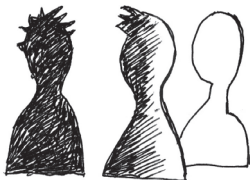
きょう酒があればきょう酔う；明日（あした）は明日の風が吹く。よく“明日愁来明日愁”（明日愁いが来れば明日愁える）と続けて使われる。



金无足赤，人无完人

jīn wú zúchì, rén wú wánrén

混じり物のない黄金が無いのと同じように、完全無欠な人など存在しない；人は誰でも多少の欠点はあるものである。“足赤”は純金。



近朱者赤，近墨者黑

jìn zhū zhě chì, jìn mò zhě hēi

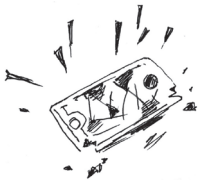
朱に近づく者は赤く、墨に近づく者は黒し；朱に交われれば赤くなる。人は付き合う友により善悪いずれにも感化される。



酒后吐真言

jiǔ hòu tǔ zhēnyán

酒は本心をあらわす；酒に酔うと気が緩んで本音が出る。酒は腹の中のことばを出させる。“酒后出真言”“酒醉吐真言”などとも。



旧的不去，新的不来

jiù de bù qù, xīn de bù lái

古い物を捨てなければ新しい物は生まれない；古い制度や習慣を改めないかぎり、新しいものは打ち立てられない。日常の器物についても用いる。



君子动口，小人动手

jūnzǐ dòngkǒu, xiǎorén dòngshǒu

君子は口を動かし、小人は手を動かす；君子（優れた人格の備った人）は道理で争うが、小人（器量が小さい人）は腕力を用いて争う。

役割語から見る中国語と日本語の違い（続）

日本中国語検定協会評議員・明治大学 加藤 徹

日本の役割語の多彩さは、翻訳家泣かせである。

2001年のTVアニメ作品『シスター・プリンセス』は、台湾と香港でも《妹妹公主》という題名で吹き替え版が放送された。このアニメの中で13人の女の子が兄を呼ぶ言いかたは全員違う。以下「人物名（日本版/北米版/台湾版）」の順に示す。

可憐（お兄ちゃん/big brother/哥哥）、花穂（お兄ちゃま/brother/哥哥）、衛（あにい/big bro/老哥）、咲耶（お兄様/dear brother/哥哥）、雛子（おにいたま/bro-bro/哥哥）、鞠絵（兄上様/brother mine/哥哥殿下）、白雪（にいさま/elder brother/哥哥）、鈴凜（アニキ/bro/老哥）、千影（兄くん/brother darling/老哥）、春歌（兄君さま/beloved brother/哥哥大人）、四葉（兄チャマ/brother dearest/哥哥）、亞里亞（兄や/mon frère（フランス語）/哥哥）、眞深（あんちゃん/bud/哥哥）

参考 <https://ja.wikipedia.org/wiki/シスター・プリンセス>

「お兄ちゃん」の可憐は普通、「お兄ちゃま」の花穂はドジっ子、「あにい」の衛はボーイッシュ、等々、それぞれキャラの持ち味が出ている。中国語版では「あにい」は“老哥”，「アニキ」は“老哥”で自然だが、「兄上様」と「兄君さま」の中国語訳は破格だ。それ以外は訳し分けをあきらめ“哥哥”で済ませている。

2016年のアニメ映画『君の名は。』は、中国でも《你的名字。》というタイトルでヒットした。2人の高校生、男子の「瀧」と女子の「三葉」の人格が、ある日突然、入れ替わる、という青春ファンタジーである。三葉が、自分の正体がばれぬよう、瀧の友人2人を相手にぎこちない会話をする場面で、4つの“我”を使い分ける場面は、中国でも評判になった。

三葉（外見と声は瀧。正座）「ああ、えーと、わたし…」 瀧の友人（あぐら）「ワタシ？（不審がる）」 三葉「あっ、ワタクシ…」 友人「ん？」 三葉「ボク…」 友人「はあ？」 三葉「オレ…？」 友人「うん（納得）」

この「わたし→わたくし→僕→俺」という流れを、中国語版では“人家”→“本人”→“在下”→“我”と、うまく訳している（他のバージョンもある）。日本語「俺」を、方言的なニュアンスの強い“俺”*ǎn*と訳さなかったのは、さすがである。

ちなみに英語版では、ここは（三葉が自分を指さして）“A girl”→“A gal”→“I mean”…→“A guy”云々と吹き替えている。

準1級に合格して

木原 将太

第98回試験でようやく準1級の合格を果たすことができた。

通訳者、翻訳者や中国を専門に研究する研究者の方々は、はるかなる1級を目指す方が多いはずだが、私も含め、これに当てはまらない実務家や学生の多くにとって、現実的な最終目標は準1級であると思う。そこに到達できたことで、喜びと同時に「次は何を目指せばよいのだろう」というような戸惑いの気持ちも正直ある。

私と中国語との出会いは2013年、今から6年前の27か28歳のころであった。当時の私は“你好”と“再见”しか知らない状態で中国上海に職を得て、機上の人となった。当然生活がスムーズに進むわけではなく、体調を崩しても病院へのかかり方が分からず、引っ越しをしようと思っても当地の習慣が分からず、ビザの問題で公安局に呼ばれても何を指摘されているのか見当がつかないという有様で、中国語ができない自分を恨む毎日であった。振り返れば、中国語の学習を続けてこられた原動力はここにあると思う。その後、1年ほどで帰国すると、あれだけ苦痛だった中国語（と中国人と中国菜）が恋しくてたまらなくなる。その恋しさを癒やすことができる素晴らしいテレビ番組、“舌尖上的中国”に出会い、何度も繰り返し見続けた。仕事のストレスでつらい夜も、中国語と中国の生活の音を聞けば、自然に眠りにつくことができた。日々の生活に“中国成分”を追い求めるうち、リスニング能力を中心として、中国語力は自然に向上していったように思う。

「資格の一つでも取っておけば、履歴書の飾りになるかな」と軽い気持ちでHSK 6級を受け、特に対策することもなく230点を取得。これなら中検も余裕だろう、と調子づいて受験したところ、2級はスムーズに合格したものの、準1級には全く歯が立たない。特に初回受験の点数はひどいものであった。

その後、実務で中国語を使う機会はあまりない中、継続して中国語能力を高めようとする気持ちを保てたのは、中検のおかげであった。次の目標は見いだせずにいるが、準1級合格をもって最終ゴールに到達した、と考えることもまたできない。なぜなら、苦労して準1級に合格するようなレベルの人は、ほぼ例外なく「まだスタート地点に立ったばかり」だからだ。

最近中国人の友人から「中国語うまいね」と言われなくなった。そのかわりに「こんな簡単な古詩も知らないのか」「お前と話すときは成語が使えなくて面倒だな」などとからかい半分に言ってもらえるようになった。これは「ようやくスタート地点に立った」ことを意味していると思う。スタート地点に立てたことをうれしく思うし、この先が文字通り永遠に続くことを半ばうんざり、半ば楽しみに感じている。

この先どう学習を進めていくか、用途は立っていないが、この「本当のスタート地点」まで連れてきてくれた中国語検定にはとても感謝している。